

生体機能解析学演習

[演習] 第1学年 後期 選択 2単位

《担当者名》幸村 近

【概要】

生体機能検査学特論などで修得した生理検査についての基本的な知識を応用・発展させて、当該領域の研究に必要な実践的な方法論や解析法を修得することを目的とする。生体機能検査一般、循環器系検査、呼吸器系検査、神経系検査、超音波検査などについて、関連する領域の文献調査を行う。それらの研究手法を参考にしてデータを取得解析し、妥当性を検証する。さまざまな研究で行われている研究方法や研究における論理的思考法について学ぶ。

【学修目標】

- 1) 最新の機器の作動原理を説明できる。
- 2) 機械操作のポイントと、データの理解から合理的な判断を選択できる。
- 3) 検査機器の適切な活用法とその限界を説明できる。
- 4) 症例の各種検査データを分析して疾患を説明できる。
- 5) 研究デザインについての知識を有している。

【学修内容】

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|---------------|--------|---------------------------|------|
| 1) 3 | 生体機能検査 | 生体機能検査一般の基礎的文献を抄読し研究動向を探索 | 幸村 近 |
| 4) 6 | 循環器系検査 | 循環器系検査の基礎的文献を抄読し研究動向を探索 | 幸村 近 |
| 7) 9 | 呼吸器系検査 | 呼吸器系検査の基礎的文献を抄読し研究動向を探索 | 幸村 近 |
| 10) 12 | 神経系検査 | 神経系検査の基礎的文献を抄読し研究動向を探索 | 幸村 近 |
| 13) 15 | 超音波検査 | 超音波検査の基礎的文献を抄読し研究動向を探索 | 幸村 近 |

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

口頭試問50%、レポート50%。

【評価基準】

学修目標に記載された内容について論説・説明できる者に対して単位を付与し、達成度に応じて、優（80点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）の評価を与える。

【教科書】

随時提示する

【参考書】

随時提示する

【学修の準備】

予習は、指定した資料の次回授業部分を事前に読んでおくこと。

復習は、授業中の疑問点をまとめ、関連する文献等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。

当該期間に40時間以上の予復習が必要。

【ディプロマポリシーとの関連性】

(DP2) 臨床検査に携わる高度専門職業人として、医療環境の変化や社会的ニーズを把握し、臨床検査や関連研究から新しい知識と技術を修得、実践・応用し、質の高い臨床検査を提供できる能力を身につけていること。

【実務経験】

医師

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での実務経験を活かし、講義・演習等を行う。